『江湖風月集』の禅僧たち(1)

須山長治

『江湖風月集』は南宋から元にかけて活躍した禅僧たちの偈頌文学である。その収録数は、本編上巻に三十三名による百三十四首、下巻は四十二名による百三十首、それに別本増入の六首（作者は四名、内二人は本編と同一人物、一人は無名の僧）が加わり、都合七十七名の禅僧の作品二百七十二首がその全体である。このほか、千峰如琬の「跋」、南堂清欲の「題」、天秀道人の「書」および東陽叟の「跋」が付される。

編者は、蜀の松坡宗憩蔵主とされるが、収録されている作者たちの年代を考えると、松坡以外の手が加わっていることは明らかで、今後この成立論を考える必要もある。

千峰如琬は松坡とは禅の宗派を異にするが、二人は同時代を生きたようで、本集に付される千峰の「跋」は松坡と『江湖風月集』について次のように語る。

松坡は前の嘉熙の末、峽を出で諸老の門庭に遍遊し、造詣深遠なり。嘗て香を冷泉に侍し、教を龍困に掌る。大明、化を雪竇に更め、以て半簷に寓す。偶たま風疾に染り出世の意無し。痾を養うこと十余年、従前の見聞せし所の尊宿、一世に雷霆たる者を以て、唯々然として衆庵に陸沈する者、掩息して輝かざる者、平時に著述せる語、或いは二篇三篇数篇に至って皆な採摭して論じ、編して策と成す。之を目けて江湖集と曰う。大羹の胾を試みて鼎味を知るべきが如し。此を以て松坡を見るに、江湖を忘るると雖も、猶お未だ江湖を忘れざるがごとし。戊子の夏、千峰如琬謹んで跋す。

また、本集の注釈書『江湖風月集略註』には

松坡、諱は宗憩。無準に嗣ぐ。宋末の人なり。此の集の編者なり。清拙の跋に曰く、「此の集は炎宋・景定・咸淳自り大元の至治・延祐逮*での諸方尊宿の作る所の偈頌なり云々」。或る抄に曰く、「松坡は宋末の人、至治・延祐の偈頌は載すべからず。これ蓋し後人の之を増するか」。

とあり、松坡の人となりと本集のことを簡単に記す。目下の

ところ、『江湖風月集』とその編者については上記の内容を越えるものはない。

本集の偈頌の作者たちと作品集は次の通りである。

上巻

1 四明大川普濟和尚　八首
2 三山介石智朋和尚　六首
3 蓬州西巖了惠和尚　八首
4 三山偃溪廣聞和尚　五首
5 四明虛堂智愚和尚　十一首
6 四明象潭濡泳和尚　六首
7 眉山石溪心月和尚　二首
8 務州石林行鞏和尚　六首
9 天台古田德厚和尚　三首
10 四明清溪　徹和尚　三首
11 錦州中溪　應和尚　四首
12 四明末宗　本和尚　四首
13 四明子元祖元和尚　二首
14 台州敬之　簡和尚　四首
15 毒海妙慈和尚　一首
16 閩中南叟祖茂和尚　三首
17 雲居率菴梵琮和尚　三首
18 閩中北山紹隆和尚　三首
19 四明石門善來和尚　三首
20 四明指堂　標和尚　九首
21 天台清叟寧一和尚　三首
22 金華復岩克己和尚　五首
23 栢堂祖森和尚　三首
24 三山笑堂　悅和尚　四首
25 西蜀晦堂　光和尚　三首
26 劒南寂庵妙相和尚　五首
27 悅堂琮闇和尚　三首
28 江西　淨藏主　三首
29 自然　恭和尚　二首
30 月洲法乘和尚　三首
31 九峰　昇和尚　三首
32 婺州雪巖祖欽和尚　二首
33 江西南州永珍和尚　一首

下巻

34 蜀　松坡宗憩藏主　十三首
35 東甌竺山如圭和尚　三首
36 雪山祖曇和尚　二首
37 絶象　鑑和尚　三首
38 蜀　希叟紹曇和尚　四首
39 重慶靈叟道源和尚　五首
40 温州横川如珙和尚　三首
41 象外　超和尚　一首
42 國清廣澤和尚　二首
43 潭州月底正忠和尚　六首
44 四明古帆　遠和尚　一首
45 四明雲外雲岫和尚　四首
46 天台藏室正珍和尚　一首
47 處州石霜　導和尚　二首
48 天台中叟　質侍者　二首
49 天台方庵　會和尚　二首
50 東洲惟瑞藏主　三首
51 四明一關德溥首座　一首
52 三山敬容　莊和尚　二首
53 四明閑極法雲和尚　二首
54 蜀　革徹　翁和尚　二首
55 四明竺卿　章藏主　二首
56 天台石橋　思首座　三首
57 杭州千峰如琬和尚　四首
58 温州損堂　益和尚　七首
59 四明北山　凰和尚　二首
60 隱岩妙傑和尚　二首
61 栢庭　意和尚　三首
62 蜀　古帆　慈和尚　二首
63 竟陵　海首座　五首
64 仲實　慤首座　二首
65 同山　穎首座　一首
66 越　禹溪一了首座　二首
67 天台東嶼德海和尚　二首
68 越　漢翁　傑和尚　三首
69 四明虛菴　實和尚　三首
70 四明用潛　明和尚　二首
71 四明仲南　參上人　二首
72 遜菴　恭上人　三首
73 四明廓然　聖侍者　四首
74 南康松巖　秀和尚　十一首
75 石霜　壽和尚　一首
別本増入
（石霜　壽和尚）　一首
76 東巖　月和尚　一首
（寂菴　相和尚）　二首
77 無名　二首

右の内、松坡と同じく「藏主」と呼称されている者がほかに三名いる。「藏主」は元来藏殿の主管として僧たちの閲藏看経をつかさどる重要職であったが、南宋以降もともとの意味を失い有名無実となったため、住持としての実力はあるが大寺に出世しなかった者を称するようになる。また「首座」は六名、「上人」は二人、「侍者」は一人で、大半の僧は「和尚」の尊称で呼ばれる。

この「和尚」の中で今日語録が単独で伝わる者は十二名数えられ、続藏経の巻第百二十一から巻百二十三に収められる。次にそれを列挙するが、彼らは松坡宗憩と同じ大鑑下第二十一世かそれ以前の人々で、松坡の後の世代にはいない。（名前の上の数字は本集の順序を表すもの）

1大川普濟　2介石智朋　3西巖了惠　4偃溪廣聞
5虛堂智愚　7石溪心月　13子元祖元　17率菴梵琮
32雪巖祖鉄　38希叟紹曇　40横川如珙　45雲外雲岫

大川普濟・介石智朋・偃溪廣聞は、大慧宗杲下二世の浙翁如琰の嗣法者で、特に大川は『五燈會元』の編者でもある。松坡と同じく無準師範を師とする者は、西巖了惠・子元祖元・雪巖祖欽・希叟紹曇の四人で、子元祖元は周知の通り日本に渡り円覚寺の開祖となる佛光禅師無學祖元その人である。松坡がこれらの兄弟弟子とどのように交流したかほとんどわからないが、西巖了惠の語録の偈頌の中に松坡宗憩のことを詠じた次の「松坡」と題する偈は松坡を知る手がかりの一つと思われる。

白頭弃鑊下烟扉　白頭鑊を棄てて烟扉を下る
正是欣逢快便時　正に是れ快便に逢う時を欣ぶ
豈謂傍山根脚在　豈に謂んや山に傍して根脚在りと
至今留得礙人枝　今に至るまで留め得て人枝を礙う

虛堂智愚は『江湖風月集』に十一もの偈頌を収録し、松坡の十三を除き松巖永秀と同じく偈数の上で突出している。『虛堂和尚語録』は全十巻で、その構成は次のようである。

巻之一　嘉興府興聖禅寺虛堂和尚語録
　　嘉興府報恩光孝禅寺語録
　　慶元府顯孝禅寺開山語録
　　慶元府瑞巖開善禅寺語録
　　慶元府萬松山延福禅寺語録
巻之二　婺州雲黄山寶林禅寺語録
巻之三　慶元府阿育王山廣利禅寺語録
　　栢巖慧照禅寺語録
　　臨安府淨慈報恩光孝禅寺語録
　　徑山興聖萬壽禅寺語録
巻之四　法語・序跋・眞賛・普説
巻之五　頌古（一百則）
巻之六　代別（一百則）佛祖讃・禮祖塔・小佛事

巻之七　偈頌
巻之八　虚堂和尚續輯・臨安府淨慈報恩光孝禪寺後録
巻之九　臨安府徑山興聖萬壽禪寺後録
巻之十　偈頌・小佛事・秉炬・法語・眞賛・虚堂和尚新添・行狀

以上、虚堂智愚を知る膨大な資料であるが、巻之七に収まる偈頌は百七十七題を数える。この内七首が『江湖風月集』と一致する。同じように他の語録中の本集と重なる偈頌の数は、大川は八首中二首、介石六首中四首、西巌八首中六首、偃溪五首中一首、石溪二首中二首、子元なし、率菴なし、雪巌なし、希叟なし、横川なし、雲外四首中四首。このことにより各語録中の偈頌が一般に公開されたものだとすれば、『江湖風月集』の偈頌収集過程は極めて個人的な特殊なものであったと考えられる。

ところで、雲外雲岫は、他の作者が臨済系であるのに対し、一人曹洞系に属する。宏智正覺――自得慧暉――明極慧祚――東谷明光――直翁徳舉――雲外雲岫と次第し、ほぼ松坡宗憩と時代的に重なる。この時期の禅宗は臨済系が席巻していた。その中で雲外の四首は特別な意味を持つ。『江湖風月集』の編者の人脈・人間交流の問題は別に考える必要があるようだ。

『江湖風月集』の偈頌作者である禅僧たちのほとんどが臨済系の人々であることも、やはり編者の位置が気になる問題点である。

所謂る禅の燈史と呼ばれるものの中で七十七名の禅僧たちはどのように記載されているか。

『増集續傳燈録』（一四一七成立）三十五名
『五燈會元続略』（一六四八成立）二〇名
『継燈録』（一六五一成立）十九名（十名前のみ一名）
『続燈正統』（一六九一成立）二十五名（十名前のみ九名）

右のそれぞれに登場する本集の禅僧たちは意外に少く、或る者は本貫・俗名・経歴・没年・上堂話・問答・偈頌等を記録され、或る者は上堂話もしくは偈頌のみ残す場合もある。更に目次の部分に名のみ連ね全く詳細なき者もある。この七十七名の内、いずれかの資料になんらかの形で記載がある者は三十八名、これを除き『江湖風月集略註』に注に説明が載る者二十名、全く人物・嗣法関係ともにわからない者十八名である。このことから、『江湖風月集』の編集意図に、先に千峰の「跋」に引いた「唯々然として衆庵に陸沈する者、掩息して輝かざる者」――野にある禅僧――の「うた」を取り入れる目的のあったことも確かなようだ。

燈史類はまた編者の人脈の広がりと同時に限界も我々に知らせる。それは、所謂る禅の嗣法関係の人脈を通して禅宗史の流れをも示す。仮りに編者を松坡宗憩を中心に据えてみる

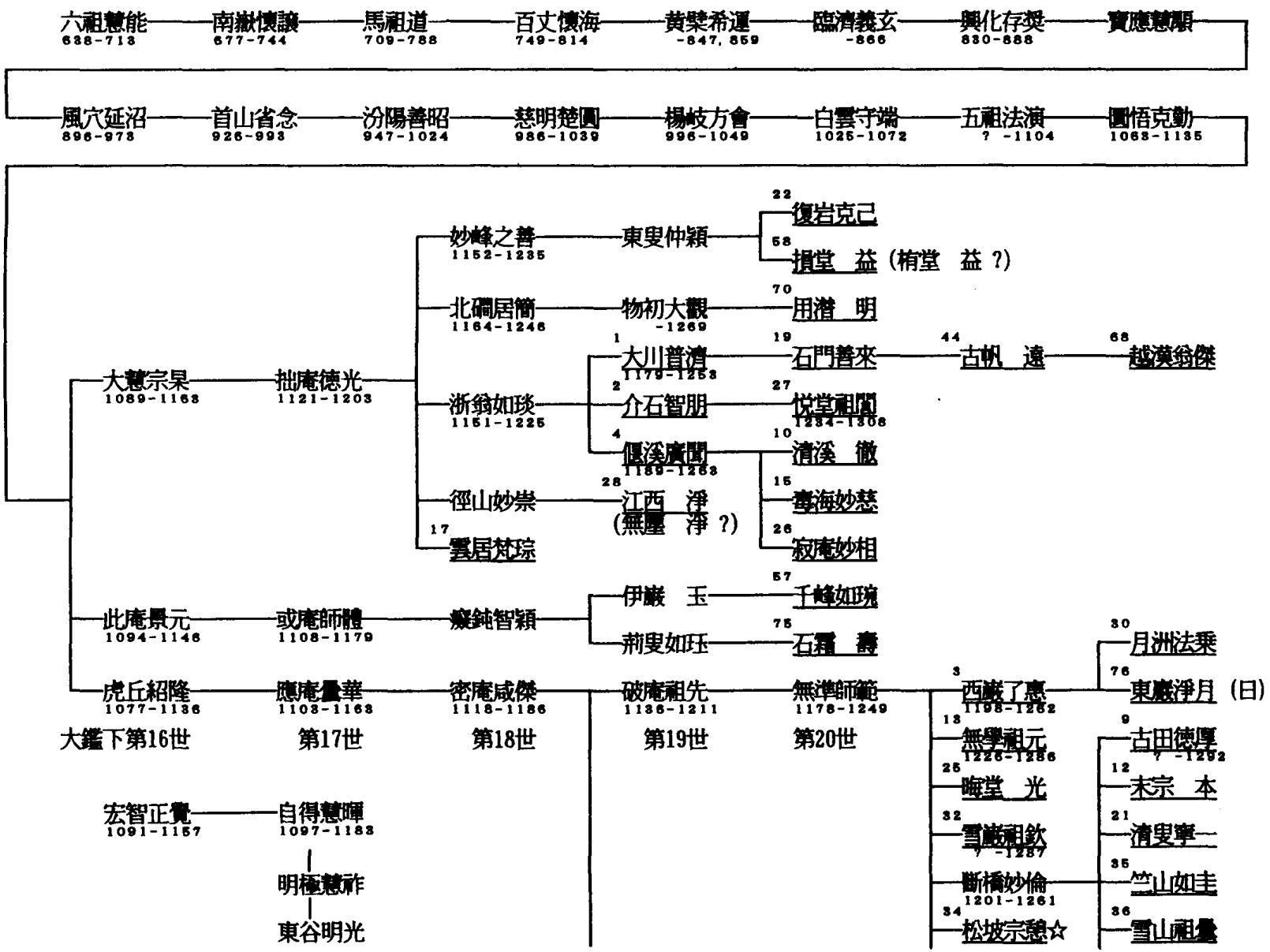
と、世代別には、松坡の世代（大鑑下第二十一世）の人物は彼を含め十八名が収められ、彼以前の世代は十六名。彼以後は大鑑下第二十二世のみで二十五名である。ただし上記は師承未詳の者は別にする。

嗣法関係では、先に述べた曹洞系の雲外雲岫を除くが、他はすべて圜悟克勤の嗣法者である大慧宗杲・此庵景元・虎丘紹隆の三人が源流となり、大慧系が十五名、此庵系が二名、虎丘系が四十一名。その虎丘系が更に無準系が二十一名、曹源系二人、松源系が十八名に分かれる。無準系は松坡宗憩の属する系統であるが、松坡と同門の断橋妙倫の弟子は八名も本集に載る。しかし断橋と松坡の師である無準の偈頌を本集は一首も収録しない。ともに語録を有する世に知られた禅匠であるに関わらず。もっとも断橋の語録中、「偈頌」には十二首しか収録されていないが、無準は六十二首を収める。これは編者の事情によるものか、あるいは編者の取捨の基準によるものか。

以上、『江湖風月集』の人物論・作品論に入る前の偈頌作者の禅僧がどのような人たちか概略したが、具体的な人脈である禅宗の法系図を次に付しておく。

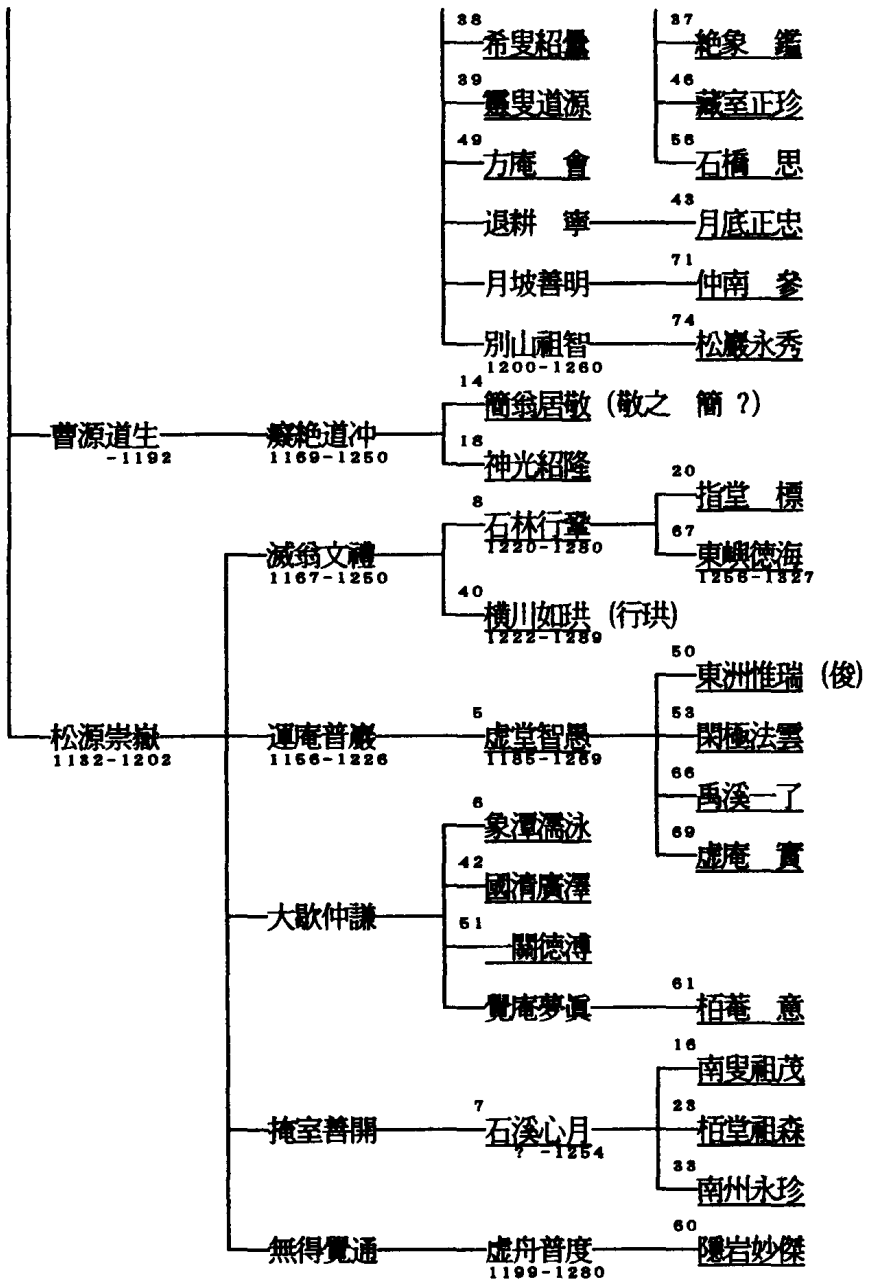
なお、名前にアンダーラインのある者が『江湖風月集』の作者たち。名前の左上あるいは左にある数字は『江湖風月集』における作者の順番である。

『江湖風月集』法系圖


六祖慧能 638-713
南嶽懐讓 677-744
馬祖道 709-788
百丈懐海 749-814
黄檗希運 -847, 859
臨濟義玄 -866
興化存奬 830-888
實應慧顒
風穴延沼 896-973
首山省念 926-993
汾陽善昭 947-1024
慈明楚圓 986-1039
楊岐方會 996-1049
白雲守端 1025-1072
五祖法演 ? -1104
圜悟克勤 1063-1135
大慧宗杲 1089-1163
拙庵德光 1121-1203
妙峰之善 1152-1235
東叟仲穎
22 復岩克己
58 損堂　益（栴堂　益 ?）
北礀居簡 1164-1246
物初大觀 -1269
70 用潛　明
浙翁如琰 1151-1225
1 大川普濟 1179-1253
19 石門善來
44 古帆　遠
68 越漢翁傑
2 介石智朋
27 悅堂祖闡 1234-1308
4 偃溪廣聞 1189-1263
10 清溪　徹
15 寄海妙慈
26 寂庵妙相
徑山妙崇
28 江西　淨（無關　淨 ?）
17 雲居梵琮
此庵景元 1094-1146
或庵師體 1108-1179
癡鈍智穎
伊巖　玉
57 千峰如琬
荊叟如珏
75 石霜　壽
虎丘紹隆 1077-1136
應庵曇華 1103-1163
密庵咸傑 1118-1186
破庵祖先 1136-1211
無準師範 1178-1249
3 西巖了惠 1198-1262
30 月洲法乘
76 東巖淨月（日）
13 無學祖元 1226-1286
9 古田德厚 ? -1292
25 晦堂　光
12 末宗　本
32 雪巖祖欽 ? -1287
21 清叟寧一
斷橋妙倫 1201-1261
35 竺山如圭
34 松坡宗憩☆
36 雪山祖曇
大鑑下第16世
第17世
第18世
第19世
第20世
宏智正覺 1091-1157
自得慧暉 1097-1183
明極慧祚
東谷明光

〔師承未祥〕17 + 1

11　錦州中溪　應和尚
24　三山笑堂　悅和尚
29　自然　恭和尚
31　九峰　昇和尚
41　象外　超和尚
47　處州石霜　導和尚
48　天台中叟　質侍者
52　三山敬叟　莊和尚
54　蜀革徹翁和尚
55　四明竺卿　章藏主
59　四明北山　鳳和尚
62　蜀古帆　慈和尚
63　竟陵　海首座
64　仲實　慤首座
65　同山　穎首座
72　遯庵　恭上人
73　四明廓然　聖侍者
77　無名



（臨濟系）

圓悟下	1世	2世	3世	4世	5世	6世	7世
58人			1人	4人	10人	18人	25人

大慧系　15人

此庵系　2人

虎丘系　41人　無準系　21人
　　曹源系　2人
　　松源系　18人

（曹洞系）

宏智下　5世
　　1人